

房總半島ニ於ケル土地ノ隆起

委員 今 村 明 恒

是ダケデモ言ヘルノデアル。

今回ノ地震現象ハ元祿ノ場合ト好一對デアルガ、津浪ノ現象ハ元祿ノ方が稍著シカツタ様デアル。元祿ノ場合ニ於テハ品川海岸ヨリ南ヘハ津浪打上ゲタトカ、鎌倉ニテハ二ノ鳥居マデ津浪入り、光明寺モ同様津浪入り、小壺在家殘ラズ津浪ニ取ラレ、片瀬在家殘ラズ破損津浪ニ取ラレタ抔ト云ヒ、又

伊東ニテハ百六十三名ノ水死者ヲ生ジタ程テアツタ。其外十九里濱ニ於テモ相當ナ津浪ガ來テ波打際カラ二十二町モ侵入シ多數ノ死者ヲ生ジタ様デアリ、特ニ小湊、市川邊ノ外房一帶ガ最モ甚カツタ様デアル。サウシテ陸地ヘ隆起モ外房邊ガ亦最モ甚ク朝夷郡千倉カラ平郡安房郡ノ浦方、地震津浪以後ハ潮ノ満ツルコトナク、從來ノ汀線カラ八九町半道或ハ一里程モ干潟ニナツタ記サレテ居ル。但シ此干潟ノ分量ハ疑問デアルガ、然シナガラ此邊ニ於テ土地ノ隆起ガ最モ甚シカツタコトハ疑ナイコトデ之レト三浦半島或ハ湘南ノ土地ガ斯様ナ異變ノアツタコトヲ記録シテナイコトトハ前後兩大地震ノ僅ニ相違シタ點デアルト言ツテ可ナル様デアル、ソレデ震原地ガ前回ノモノハ今回ヨリモ稍東ニ偏シテ居ツタコトガ

ノ時陸續キニナツタノデアル。今回ノ地震デ之ニ相當スル變化ハ白濱ノ築港ガ隆起ノ爲メ用ヲ成サナクナツタコトデアラウ、特ニ前後ノ關係ノ明瞭ナノハ相濱ノ狀態デアル。相濱漁業組合事務所ニハ承應三年即チ元祿十六年ヨリ四十九年前ニ出來タ古圖ヲ藏シテ居ルガ、第一圖ハ其一部分ヲ示シタモノニアツテ、之ニ依リテモ元祿以前ノ地形ヲ知ルコトガ出來ルノデアル。

今此承應地圖ト大正大震災前ノ圖（第二圖）トヲ比較シテ見ルト、海岸線ニ著シイ相違ガアルコトガ分ルガ、第二圖ニハ元祿以前ノ汀線ヲモ記入シテ置イタ、若シ之ヲ元祿地變ノ結果トスルコトガ出來ルナラ、地震ノ爲メ相濱ノ巴字形ヲナシタ小漁港ハ隆起シタコト六米程度デアルガ、其後土地ハ少シク低下シタトモ言ハレテ居ルカラ、此值ハ實際ヨリモ少サク見積ラレテ居ルデアラウ、此爲メ從來東風ハ勿論南風マデモ凌ギ得タ港ガ、西風ト南風トニ暴露サレルコトニナリ、其代リ海濱ノ新地ニ新漁村ガ立テラレ、サウシテ此新漁村ガ大正ノ御代ニ就テ津浪ヲ背負込ンダコトニナルノデアル。更ニ大正地震ノ結果ハ一・五米カラ一米程ノ隆起ヲナシ、此爲メ相濱ハ平沙浦ノ一部タル沙濱トシテ更ニ一步ヲ進メタコトニナ

ル。(第二圖參照)

相濱地變津浪ニツイテハ本報告ニ池田理學士ノ報文ガアル、之ニ據レバ津浪ノ高サハ最大九・四米ニ及ビ陸地ノ隆起ハ二米程デアル。陸地測量部ノ水準測量ガ此地方ニ及バナイノハ遺憾デアルガ、海軍水路部ノ測定ハ一・五米ノ隆起ヲ示シテ居ルカラ、事實ハ五六尺程度ト見做シテ可ナルモノデアラウ、地震後夫ノ沿岸ノ大隆起ガ多少沈下シタ様デアルトハ夙ニ唱ヘラレテ居タ所デアルガ、假令之レガ事實デアルトシテモ、其レハ主トシテ大震後一二月内ニ起ツタコトデアラウ、此事項ハ目下疑問トシテ、本會ニ於テモ尙ホ調査中デアル、檢潮儀記象カラ潮位ノ週期的影響ト氣象ノ影響トヲ除キ、土地昇降ノ影響ヲ見ルモ調査ノ一法デアラウ。

斯ク元祿ノ地震トイヒ、大正ノ地震トイヒ、共ニ陸地ノ大隆起ヲ惹起シタノデアルガ、此隆起ハ該方面ノ大地震ニ伴フ通常ノ現象ノ様ニモ思ハレルノデアル。地質學者ノ調査ニヨレバ房總半島ノ第三紀層ハ有史以前ノ現地質年代ニ於テ多様ノ變動ヲナシ、海岸ニ於テハ隆起ト沈降トヲ繰返シテ居ルトノコトデアルカラ、最近數千年ノ間ニ此趨勢ヲ繼續シ、サウシテ著シキ急激ナ變動ヲナス度ニ、所謂外側地震帶ニ於ケル此方面ハ彼方此方ニ大地震ヲ起シタモノデハアルマイカ、十九里濱ノ地理(第四圖)ヲ按ズルトキ、同様ノ想像ガ浮ンデ

來ルノデアル。甚ダシキ空想ヲ述ベル様デアルガ、一昨年來調査シ得タ資料ヲ提出報告スル前置キトシテ、茲ニ之ヲ記スコトヲ許サレタイ。

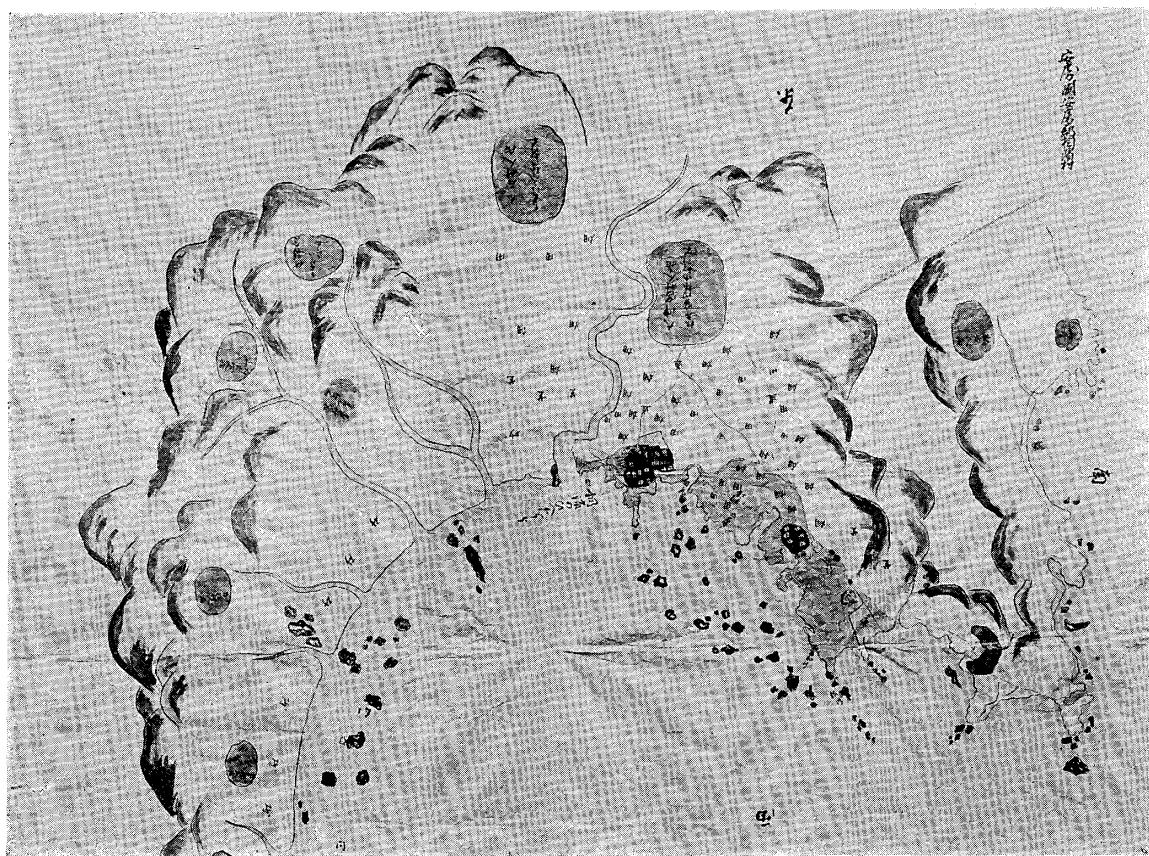
自分ハ九十九里濱ノ生成ニツキ、之レガ少クモ數千年以内ニ於テ起ツタ二回ノ急速ナ土地隆起ニ因ツテ現在ノ狀態ノ通り大沙濱トナツタモノト認メルノデアル。現在九十九里濱ノ南部ヲ流レル一ノ宮川ハ、其川口ニ著シキ潟ヲ有シテ居ル。

此ハ此方面ニ於テ多ク吹キ荒ム南東ノ風ノ爲メニ、川口ガ塞ガレ易イノデ、川筋ハ次第ニ海岸ニ並行ニ北ノ方へ轉位シテ潟ヲ作リ、然ル後漸ク其出口ヲ海ニ求メ得テ居ルノデアル。

然ルニ其西方ニ於テ、互ニ二十町程ノ間隔ヲ以テ、此潟ニ相似ナル二ツノ潟ガ横タハツテ居ル。サウシテ其形狀道路ノ配置杯カラシテ直チニ起ル想像ハ、九十九里濱ハ以前此ノ第二第三ノ潟ヲ順次ニ海岸線ニ近ク並行ニ有シテ居タコト、丁度今日ノ第一潟ニ於ケルト同様デアツタノデハアルマイカトノコトデアル。加之第二潟ノ西北ニ接スル高根本郷ニ於テハ、其處ノ潟ガ一千年前(弘仁年間カ)ニ於ケル突然ナ土地ノ隆起ノ爲メニ現今ノ状態ニナツタモノデアルトノ傳說モアル。

右ノ外前記ノ想像ヲ助ケル事項トシテ、第一、一つノ潟ト次ノ潟トノ間隔ガ二十町程モアルノニ、標高差ガ僅ニ二三米ニ過ギナイコトデアル。此ハ丁度元祿又大正年度ノ陸地隆起ノ

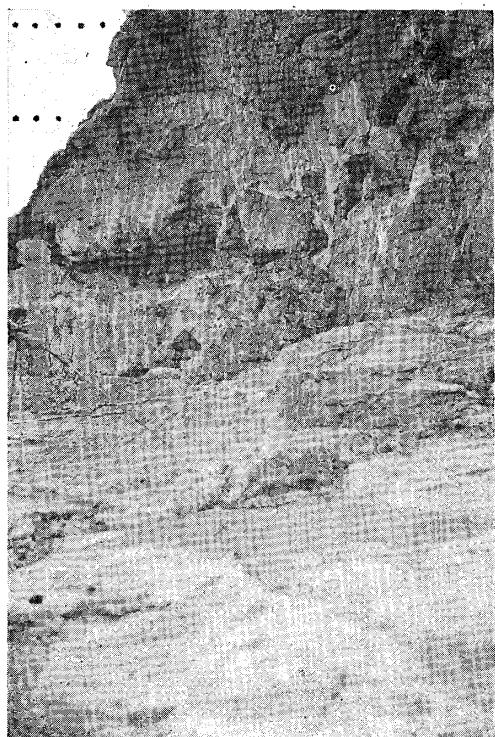
第一圖 相濱承應古圖



第二圖 布良相濱地形變遷圖



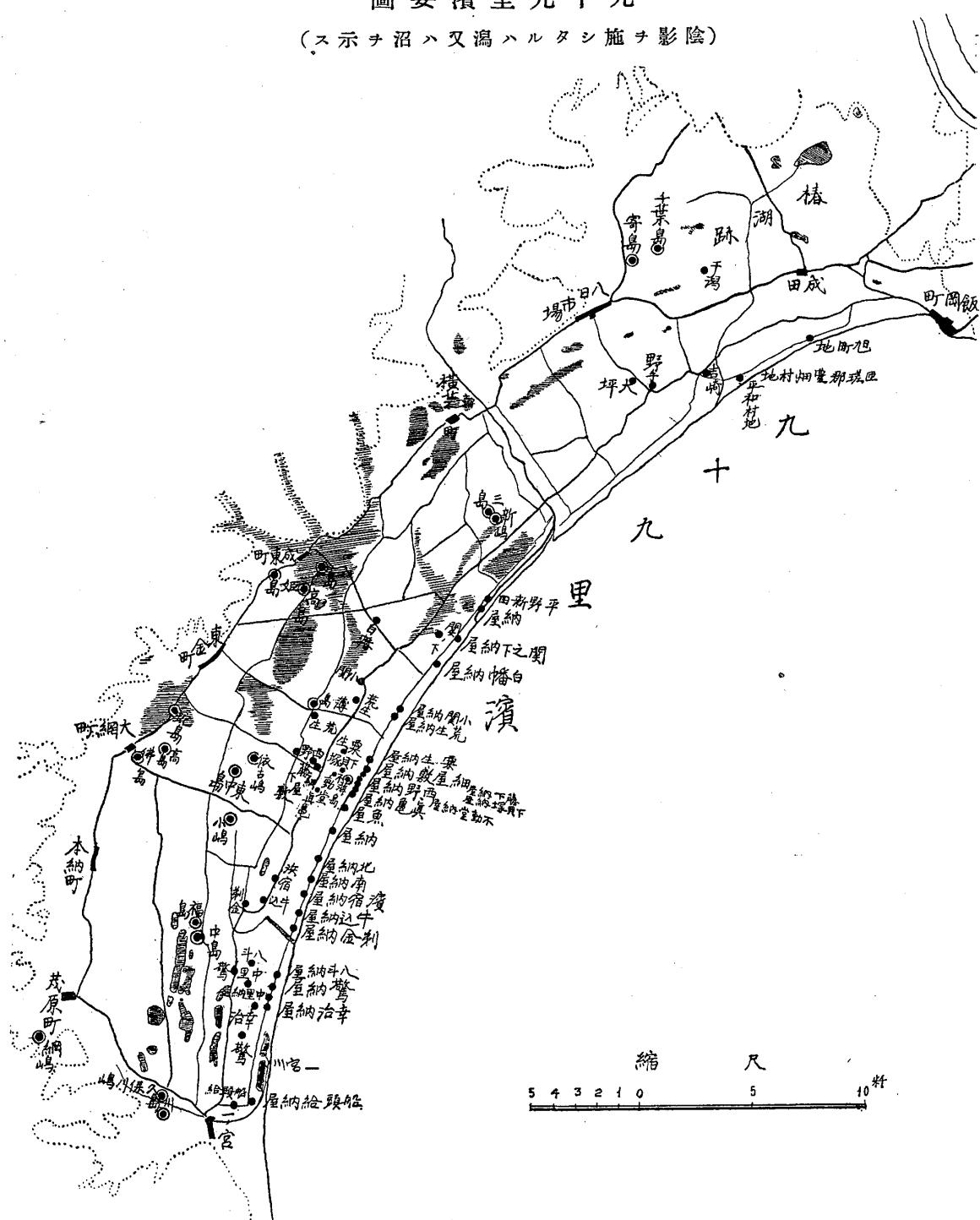
第三圖 波太島斷崖二印セル過去水準線



IV
III
II(元祿大震前)
I(大正大震前)

第四圖
九十九里濱要圖

(ス示チ沼ハ又鴻ハルタシ施チ影陰)



程度デアル。次ニ九十九里濱ノ北端ニアル椿湖ノ遺跡ニツイテノ傳說デアルガ、該湖ハ寛文年間開墾セラレテ新田ヲ作ツタノデアル、然ルニ其後旱魃ノトキニ、田面ニ濃厚ナ鹹水ヲ湧出シテ、植物ヲ枯ラシタトノコトデアル。又九十九里濱ノ周圍丘陵地ニハ三千年以上ノ遺跡ト認ムベキ貝塚ガアルニ拘ラズ、濱ニハ斯様ナモノガナイトノコトモアリ、現在デハ沿岸二三十町以内ニアル地名ガ全ク和名抄ニ載ツテ居ナイトノコトモアル。特ニ珍トスベキハ、濱ノ中ニ島ノ字ヲ末尾ニ有スル地名ガ夥シク而モ之レガ略ボ等標高線上ニ並ンデ居ルコトデアル、即チ周圍ノ丘陵地ニ接シ南方カラ數ヘルナラバ、川島・久保川島・綱島・佛島・高島（大綱附近）・蛇島・姫島・高島（成東附近）・島・寄島・千葉島等ガアリ、濱ノ中央ヲ略ボ縱貫シテ、中島・福島・小島・東中島依古島・薄島・新島・三島等ガアル。恰モ現在ノ海濱ニ何々納屋トイフ地名ガ並列シテ居ル様ナ觀ガアル。兎ニ角、現在ノ海濱部落ノ地名ハ、何レモ西方各村落ノ派出所タル名稱デアツテ、其新開地タルコト、疑ナイ所デアル。共興村吉崎ハ九十九里濱北部ニアツテ、海岸カラ半里餘ノ處デアルガ、同處伊藤雄視氏鑿井ノ結果、地表カラ一尺二寸ハ栽培土、次ノ三尺五寸ハ赤砂、次ノ四尺七寸ハ青砂デアリ、其下層ハ青砂白砂ニ砂利大ノ輕石ヲ混合シ、而モ其中ニ眞菰草ノ密生シタルヲ掘出シタトノコトデアル。

斯様ナ事實ニヨリ、房總半島ノ太平洋沿岸ハ、外側地震帶ニ於ケル大地震ノ爲メ隆起スルコトガ、其特徴ノ様ニ見エルノデアル。理學士田中館秀三氏ハ房總並ニ伊豆半島ノ彼方此方ノ海岸絶壁ニ於テ、以前ノ汀線ト思ハシムベキ貝殻附著線ノ幾條ヲ、而モ此等ガ幾尺ノ間隔ヲ以テ互ニ平行ニ印セラレテ居ルモノヲ發見シタトノコトデアル。自分モ斯様ナモノヲ波太島（俗ニ仁右衛門島ト呼ブ）ノ北方絶壁ニ見出シタ（第三圖）、圖中一二ハソレヽ大正元祿大震前ノ汀線デアルガ、二ノ上方ニ四五米ノ間隔ヲ以テ、三並ニ四ナル過去ノ汀線ガ認メラレル。此中三ハ弘仁九年（西紀八一八年）關東大震前ノ汀線デアル様ニ思ハレル。サレバ我々ガ元祿大正年度ニ於テ見タ地變ハ、過去ニ於テモ此方面ニ繰返サレタトシテ可ナル様デアルガ、果シテ然ラバ、同一地震帶ニ於テ大活動ガ再び繰返サレルニ要スル年數ニツキ、一例ヲ見出シ得ラレタ様ニモ感ゼラレ、尙ホ今後ノ大活動ニ關スル知識ヲ得ルニツキ大切ナ暗示ヲ與ヘラレタ様ニモ思ハレル。

大正年十四年一月九日記ス